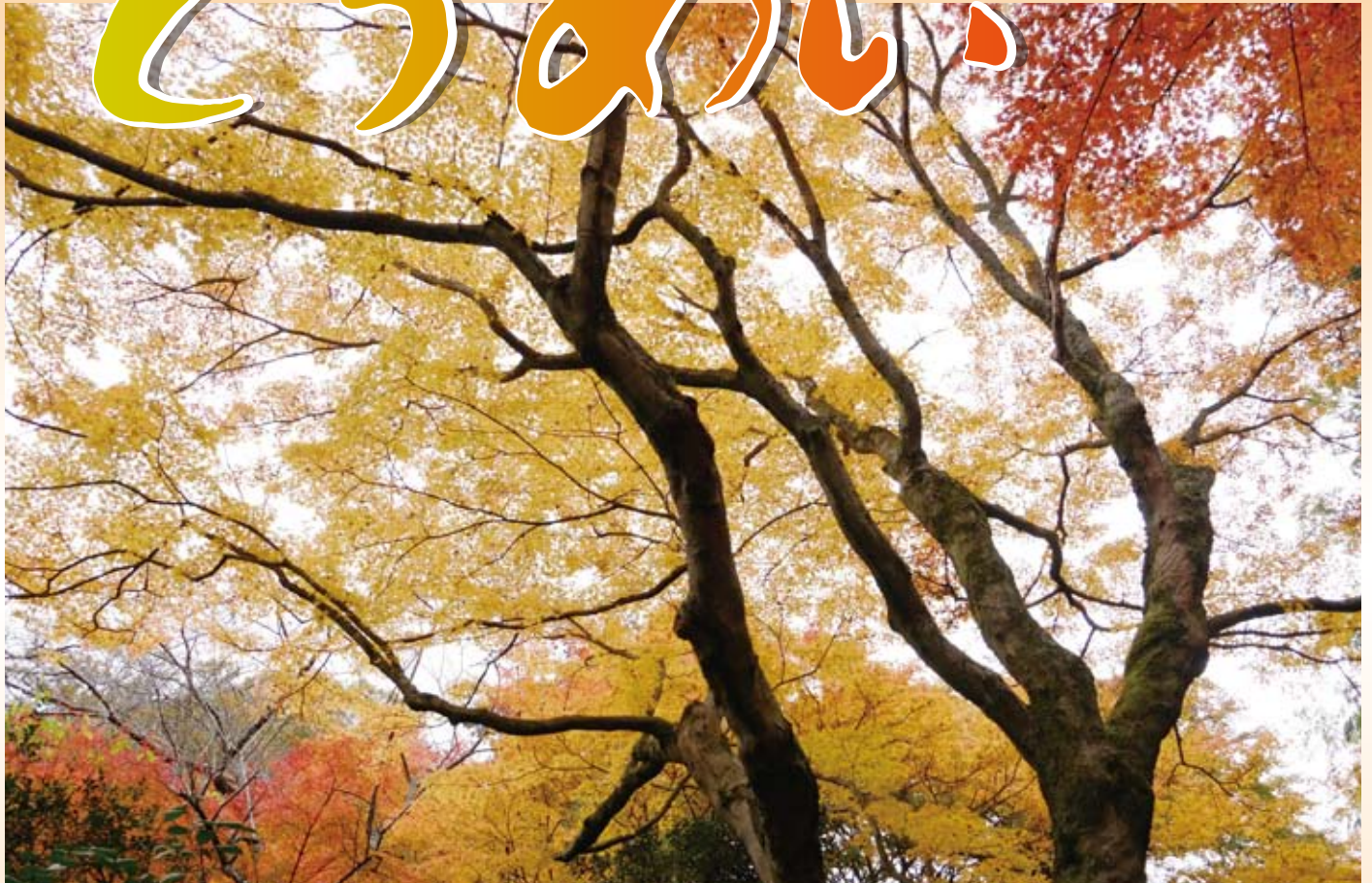


とうふい



古都の紅葉 ～鎌倉市 明月院～

寺の前を歩いていてふと上を見上げたら、葉の「黄色や赤」と幹や枝の「黒」とのコントラストが見事な紅葉が迫ってきました。紅葉の季節、時間の流れの速さを感じます。

フォトサークルA 大塚 哲夫

●目次

古都の紅葉	1P	特集 健診センター 「健康診断のすすめ」	5P
医療記事「心房細動の治療－ カテーテルアブレーションについて」	2P	かけはし ～登録医紹介～	6P
リハビリ通信	3P	東名厚木病院の放射線治療と品質管理	
「地域包括ケア病棟」 医療安全講演会	4P	老健さつきの里あつぎ 第16回いきいき教室 開催しました	7P
がんについて知る医療講座と 交流会を開催しました	4P	働く仲間	
		ペットのはなし	8P
		編集後記 関連施設一覧	

心房細動の治療ー カテーテルアブレーションについて

循環器科◆北野 義和

最近、注目される循環器疾患の中に心房細動という不整脈があります。もちろん、以前からあった不整脈であり、古くから脳梗塞の原因になることも分かっていました。心臓は心房から心室にかけて、規則正しく電気信号が流れることによって規則正しく心臓の筋肉が収縮し、血液を送り出しています。しかし、心房細動ではその名の通り心収縮が不規則になってしまいます。心房細動により不規則な動きとなった心房の血流が淀んだ結果、血栓が生じ、それが飛んで脳の血管に詰まることで脳梗塞が発症します。正常なリズムの状態と比較すると、脳梗塞発症は5〜10倍であるとも言われています。有名な話では、元巨人軍の長嶋茂雄監督や日本サッカークのオシム監督が脳梗塞を発症した原因もこの心房細動です。これにより、世間的にも脳梗塞予防の重要性が認識され、現在ではリスクに応じて抗血栓療法を行うことが一般的となっています。

心房細動は、一時的には正常なリズムに戻る発作性心房細動と、ずっと持続している慢性心房細動とに、大まかに分類されています。発作性心房細動

はその名の通り、発作のように心房細動を起こしては止まり、また起こしては止まり、という状態を繰り返します。そして徐々に発作時間が長くなり、最終的には慢性心房細動に移行するといふことが多くみられます。これを予防するための治療としては、主に薬物療法が用いられてきました。しかし、残念ながら特効薬というものはなく、いろいろな薬物を使ってその効果を試してみる方法しかありません。効果的な薬物があっても維持するためには長期間の抗不整脈投与が必要であり、それでも最終的には慢性心房細動へ移行することも多く経験されるのが現実です。

さて、最近心房細動が注目されてきたのは、根治させる方法としてカテーテルアブレーションと呼ばれる治療法が目覚ましい進歩をとげ、心房細動の管理・治療方針を大きく変えることになったからです。まず、このカテーテルアブレーションについて説明します。

カテーテルアブレーションは、血管を通じて心臓内部に治療のためのカテーテルを運び、不整脈の原因となっている心臓の筋肉部位やその周囲を電気を使って焼灼することによって、不整脈の原因となる電気信号を遮断する

方法です。多くの不整脈治療にカテーテルアブレーションは有効であり、貢献してきましたが、心房細動の場合には長い間その原因部位がわからないため、カテーテルアブレーションは難しいとされてきました。

しかし、研究が進むにつれ心房細動発症には心房そのものの素因(基質)に加えて、それを起こすきっかけとなる不整脈(トリガー)が必要であることがわかりました。そして1998年には、このトリガー不整脈が肺から血液を心房へ届ける肺静脈という部位からほとんど発生しているということがわかりました。その後、カテーテルアブレーションにより肺静脈を心房から電気的に隔離することによって、心房細動が予防できるというアブレーション治療(肺静脈隔離術)が開始となり、飛躍的に進展をとげました。肺静脈隔離術は、トリガー不整脈の治療が目的であるため、初期段階である発作性心房細動の症例に効果が高いことがいくつかの研究で明らかとなっています。発作性心房細動における従来の薬物治療での正常リズム維持率は20〜30%でしたが、カテーテルアブレーション治療群では60〜90%であると報告されています。

それだけでなく、症状、運動耐用量、そして日常生活レベルの改善といった項目でもアブレーション治療のほうが優れていることがわかりました。一般的に、発作性心房細動でも慢性心房細動でも脳梗塞発症率には差はないとされてきましたが、この点も最近では変わりつつあり、やはり慢性心房細動のほうが脳梗塞になりやすいと考えられてきています。もちろんリスクに応じた適切な抗血栓療法は必要であることには変わりありませんが、発作性心房細動のうちに、カテーテルアブレーションにより心房細動を根治することは、抗血栓療法中止が可能であるだけでなく、脳梗塞発症率の低下、心不全の予防にもつながるものと考えられます。

当院でも、発作性心房細動に対してのアブレーション治療を開始しています。健診で初めて心房細動を指摘されたような場合には、まだ発作性心房細動の状態である可能性が高く、慢性だとしても期間が短いと考えられます。症状があった時はもちろんのこと、定期的な健診の機会に心電図の検査を行い、もし心房細動の所見が認められた場合には当院循環器科を受診してください。



リハビリ通信 第44回

地域包括ケア病棟

東名厚木病院には、60床の地域包括ケア病棟があります。地域包括ケア病棟は、急性期病棟での治療が一段落し、リハビリテーションの継続や在宅復帰の準備をするための病棟です。時には、在宅療養されていた方の急な受入なども行なっています。地域包括ケア病棟は、骨折や脳卒中発症後のリハビリテーションが必要な患者さんに対してより積極的なリハビリテーションを実施し、地域のニーズに合った医療の提供が行なわれる病棟とも言えます。

平均的な実績では、地域包括ケア病棟に入院しリハビリテーションを実施した患者さんは月に100名以上、患者さん一人当たりの平均的なリハビリテーション実施時間は、一日に約50分になります。また、退院患者さんの80%以上が自宅退院されています。その為に、退院前には必要に応じてセラピストが患者さん宅に同行訪問して、実際に家の中の動作を確認し、問題点を把握する事で住環境の改善や福祉用具活用の提案を行なっています。

ご家族や介助者の方に実際のリハビリテーションを行なっている場面を見学していただく事もあります。ご本人の頑張りや日々の変化を直接見学して、その変化を確認しています。同時に必要なご家族や介助者に介助方法のアドバイスをを行う事もあります。

今後も一人でも多くの方が、できる限り不自由なく自宅での生活を送る事が出来るように、これからもリハビリテーション科は患者さんのために活動して参ります。



田中 勇

医療安全講演会

9月5日、11日に外部講師を招請した平成30年度医療安全講演会を開催いたしました。今回は、「トラブル回避！患者さんやスタッフと揉めない話し方～対立から日常診療までの対話を紐解く医療コンフリクト・マネジメント概論～」を厚生中央病院、院長補佐の荒神裕之先生から「Safety Firstを徹底できる仕組み・風土作り」を静岡英和学院大学短期大学部、現代コミュニケーション学科、准教授 心理学博士の重森雅嘉先生よりご講演を賜りました。

両先生には、以前にも当院で医療安全講演会を行っていただき大変わかりやすく好評でした。今回、荒神先生からは、対話スキルとして、相手の話は抱きしめるように聞くことが重要であり、表現されていない先の思いに寄り添うことと学びました。表現されている言葉や態度にのみ対応をしがちですが、相手の言葉の先にある感情や思いを傾聴することができるようにな



9月5日 荒神先生



9月11日 重森先生

りたいと思いました。また、重森先生からは、認知行動科学の視点からヒューマンエラー防止の為に、記憶の限界や平均以上効果（自分は大丈夫）などを知り、エラーを起こしにくい環境や組織風土について学ぶことができました。

504名の職員の参加があり、今回の学びを活かし、安全な組織風土を根付かせ、対話スキルを高めていきたいと思っています。荒神先生、重森先生ありがとうございました。

医療安全管理室 土田 忠行

がんについて知る医療講座と 交流会を開催しました

東名厚木病院では、「がん診療連携指定病院」を

目指し様々な取り組みをしています。



がん治療として手術、抗がん剤治療、放射線治療（リニアック）を始め、緩和ケア病棟も開設し包括的ながん治療を提供しています。患者総合支援センター内に、近隣の方ががんについて相談しやすい環境を作ろうと昨年10月から「がん相談支援センター」が設置され、すでにのべ千件を超える相談に対応しています。また、今年8月から直通の専用ダイヤルも開設し、平日の9時から16時まで、看護師や社会福祉士の資格を持つ専任の相談員が対応しています。相談は無料で患者さんやご家族、友人、知人、匿名でも可能で、在宅や病院、セカンドオピニオン、医療費など経済的な相談も受けています。



栄養コーナーではがんの患者さんにおススメの補助食品の紹介がありました



病院玄関にてピンクリボンツリーを設置しました



乳がん検診や自己チェックについてご案内

院内ではがんに関連した職員向けの研修会や患者さん・ご家族向けの研修会、交流会も定期的開催しています。御存知の方も多いと思いますが、10月1日は乳が

ん検診の啓蒙活動としてピンクリボンデーがあります。ピンクリボン月間の10月13日にがんをテーマにした「医療講座・交流会」を開催しました。

今回はがんの予防から治療まで全てに関心のある方を対象に、第1部では外科の神山公希医師が「治療を受けない人にも知ってほしい、がんの知識」、第2部では管理栄養士の五十嵐忍氏が「食事と栄養のヒント」について医療講座を行いました。第3部では食欲のない時に効果的に栄養の取れる栄養補助食品の試飲コーナー、おしゃれウィッグ・補正下着の試着体験会、仕事やこれまでの生活を続けながら治療ができる放射線治療の見学会、さらに医師や看護師、管理栄養士、社会福祉士などに相談できる交流会を行いました。



日野先生



神山先生

当日は晴天にも恵まれ患者さんやご家族、近隣の方など81名の参加がありました。放射線治療室内の見学は初めての取り組みでしたが、見学者44名と予想していた人数をはるかに超えました。参加した方から、「初めて参加したが興味深い内容だった。先生の説明はわかりやすかった。放射

線設備は初めて見た。食欲がないとき、どんな食品が良いのか悩むときがあるので聞いてみたい」と思い参加した。治療を受けていたときにこの話が聞けたら良かった。家族から、イベントがあることを教えてもらって参加した。いい話が聞けて良かった。資料があると良かった。」などのご意見をいただきました。

日本人の2人に1人が生涯でがんになる時代です。早期発見し適切な治療を行うことで生存率も上がっています。また、がんの診断を受けた人がその後の生活で抱える身体的・心理的・社会的な様々な課題を、社会全体が協力して乗り越えていく理念（がんサバイバーシップ）も広がり、色々な支援が行われています。私たちは、地域に開かれた病院の窓口として「気軽に電話してもらいたい」、やっとの思いで電話してきた方に「電話してよかった」と思ってもらえるような対応をしていきたいと思っています。



たくさんの市内近郊の皆様にご参加頂きました



補正下着のコーナーでは試着も可能です

患者総合支援
センター
福田 美香
竹田 英子

健康診断のすすめ

東名厚木メディカルサテライトクリニック 総合健診センター



東名厚木メディカルサテライトクリニックでは人間ドック・健康診断・厚木市住民がん検診・保健指導等の実施を中心に、厚木市内および県央地区の皆様の健康を守るため日々活動をしています。

平成20年には年間利用者数が約9,000人だった人間ドックも、平成29年には約12,000人の方々にご利用いただけるまでになりました。

また、厚木市住民がん検診・企業健診等を含めた健康診断では、院内健診と巡回健診を併せて年間約40,000人の方々に

にご利用いただいております。

特に巡回健診は年間で135日稼動しており、巡回場所も厚木市を中心に伊勢原市、秦野市など隣接している市町村への出張も行なっております。巡回健診では、今年の2月にレントゲン車を一新し、胸部レントゲンと胃部レントゲンの同時実施が可能となりました。そのため従来の巡回健診よりスムーズに健康診断を実施することができるようになり、新しいレントゲンバスに代わりまだ半年ほどですが、既に巡回健診先の企業様からはご好評をいただいております。

人間ドックや健康診断は病気の早期発見が目的です。平成29年に人間ドックを受診された方々のなかでも所見の数は、「経過観察を要す（C判定）」が41,135人、「医療を要す（D1判定）」が6,300人、「要精密検査（D2判定）」が5,146人となっています。

せっかく健康診断を受けたのであればその結果を良い方向に生かしたいものです。異常があ

り精密な検査が必要になった場合や、専門医の診察・診断が必要になった場合などは速やかに専門科の受診を案内していただきます。また、当院では人間ドックをご利用いただいた契約団体に限り、受診者の希望に応じて「保健指導」の実施をしています。この「保健指導」は積極的支援と動機付支援の2つがあり、どちらも人間ドックの結果から日常生活習慣の改善を通じて病気の早期予防を促すものです。

具体的には保健師による食事制限・運動計画などを実践し、その結果をもとに定期的に保健師と一緒に健康状態の改善をチェックしていきます。積極的支援では保健師との面談を院内で定期的に行い、検査結果をもとに立てた改善計画（食事制限・運動計画等）の進捗をチェックしていきます。一方動機付支援では、初回は保健師の面談のもと今後の目標や計画を立てていきますが、定期的な面談は行なわず電話による勧奨を行ないます。

人間ドックや健康診断を実施

するだけでは病気を防ぐことはできません。受診した結果をどのように生かしていくかが一番大切です。保健指導はある程度期間も必要であり、普段の自身の生活習慣を変えていかなければいけない大変さもあります。人間ドックを受診する意義を更に大きくすることができ

ます。自分の身体とは一生付き合い合っていかなければなりません。自分自身の健康を壊すのも、守り続けていくのも自分自身です。普段は意識しにくいからこそ、年に一度は健康診断を通じて自分の体と向き合ってみてはどうでしょうか。

佐伯 健太郎



かけはし はせべ内科医院

登録医紹介

vol.24

院長 長谷部 哲理



《略歴》

昭和57年 東海大学医学部卒
昭和59年 東海大学医学部付属病院前期研修医修了
同年 東海大学医学部消化器内科入局
昭和63年 東海大学医学部大学院修了
同年 東海大学医学部消化器内科助手
平成7年 東海大学医学部内科講師
平成14年 はせべ内科医院開設

《資格》

日本内科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本消化器病学会関東地方会評議員
神奈川県消化器病医学会評議員
日本医師会認定産業医
医学博士

《所在地》

〒243-0031
厚木市戸室1-32-3
TEL. 046-295-1241



厚木市戸室で内科医院を開院させていただいて、16年になります。

私の専門領域は消化器内科ですので、胃や大腸の内視鏡検査を数多く行っております。そのため毎年早期胃癌や大腸癌の患者が認められ、入院治療が必要となることも少なくありません。また緊急で治療が必要な場合にも、東名厚木病院にはいつも迅速に対応していただいております。さらに、精密検査が必要な場合にも東名厚木病院の各科の専門の先生にも御指導いただき大変感謝いたしております。

私ども医療従事者にとって重要なことは、患者さまが必要な場合に適切な医療を提供することです。そのために

は、各医療機関が持つ機能や役割を明確に分担し、それぞれの医療機関が連携して、地域の方々の生活の質を向上させることが必要です。

話しは変わりますが、我が家の愛犬(柴犬)も家族の一員となって15年。散歩が大好きでしたが、最近は少し足が弱くなり、散歩に出かけてもUターンして早く家に帰ることが多くなりました。

これからも、東名厚木病院との連携を保たせていただき地域の皆様のお役に立てるように、日々是好日をモットーに努めて参りたいと思います。今後も御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

東名厚木病院の放射線治療と品質管理

放射線治療とは、文字通り放射線のがん細胞に当てて死滅させる治療方法です。

これまで我が国では放射線に対するイメージと、放射線治療を行える施設が少ないことから、あまり一般的な治療法ではありませんでしたが、機器の技術進歩により現在では手術と同程度の治療成績が得られるようになりました。その大きな理由は、がん以外の「正常な細胞に放射線が当たらない仕組み」の開発にあります。また、「本当に狙った場所に決まった量が当たっているのか」を調べる「医学物理士」という資格があり、日本にわずか1100人の希少な医療用放射線を管理するプロです。主に高度医療を行う大学病院・がんセンターなどで活躍し治療成績向上に大きく貢献しています。

当院では、東大病院放射線治療部門から、その医学物理士と放射線治療医を迎えた上に、前述の高精度装置も同じ、さらに放射線技師も看護師も東大で

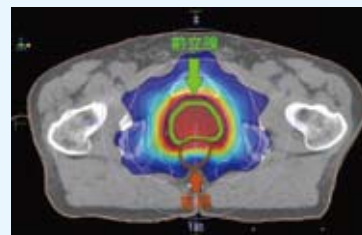
研修済みなのでまさに、「厚木の地で東京大学付属病院の放射線治療を安心して受けることが出来る病院」という事になります。放射線治療医は週1回しかおりませんが、いつでも連絡出来る体制なので（オンラインで治療計画が出来る当院ならではの仕組み）、急な治療にも対応可能です。

2017年6月より正式稼働をしておりますが、主な部位としては、前立腺、乳がん、食道がん、骨転移、緩和目的などです。2017年度は172名の治療を行いました。

片岡 令安



放射線治療 風景



前立腺への治療計画: 青から赤へ行くほど強い放射線が当たる

★★第16回いきいき教室 開催★★

10月21日、当施設にて「第16回いきいき教室」を開催しました。当日は施設利用者の家族や地域の方、また、近隣施設などから多くの方が参加されました。

今回は療養棟の職員が講師となり「ふれてみよう オムツのヒミツ」というテーマでお話しました。排泄トラブルの種類やオムツの種類・選び方の説明、オムツのあて方、実際にオムツに水をかけてどのくらい吸水されるのかなどの実演もありました。普段なかなか聞く機会の少ない内容で、参加された方からは「ためになった」「今後の参考になった」という感想を頂きました。

次回のいきいき教室は平成31年1月26日の予定です。皆さまのご参加お待ちしております！

慶田城 綾香



働く仲間

入職／平成21年4月6日
氏名／松山 優佳
患者総合支援センター



平成29年10月1日から患者総合支援センター内に、がん相談支援センターが開設されました。相談センターは、がんの事やがん治療について、今後の療養や生活についての心配事など、がんに関わる相談支援を行う窓口になっています。

私は専任として入院担当と兼務し活動しているため、入院前や入院当日の面談で、がんの患者さん・ご家族へ意図的に介入し、思いを引き出すようなかわりを心がけ、病棟への橋渡しを行っています。

まだまだ未熟な部分も多く、専門分野の方々に相談しながら、また専従のメディカルソーシャルワーカーと協働しながら、相談者の方の支援を行っています。

これからも「相談してよかった」と思っていたいただけるような活動を行っていきたいと思っていますので、ご指導・ご協力、よろしくお願いいたします。

入職／平成29年12月11日
氏名／村尻 由利加
総務課



「人格者とはなんぞや」これはハーバード大学出身の裁判官でしたが、更生しても犯罪が後を絶たない現状に心を痛め、そもそも犯罪をしない人を増やす方が合理的だと考えた結果、牧師に転職。関西学院大学心理学部教授、幼稚園園長を兼任していた岡本知之氏の言葉です。

必ず初めての授業で学生たちに問いかけているそうです。考える時間を与え、色々な意見が出た所で答え合わせをします。

「人格者」とはいかに相手の立場に立って考え、想像し、行動できる人であると。

授業の前後で、明らかに学生たちの友人関係に変化があるそうです。もちろん良い方に。

この言葉に出会ってから人格者を目指しています。ずる賢い考えがふっと湧き起こっても自分が落ちてしまうだけだと考えられるようになりました。

細々した業務を身に着ける事が前提ですが総務課の仕事も職員や患者さん、患者さんのご家族の立場に立って考えられるよう邁進していきます。よろしくお願い致します。

編集後記



●今回も東名厚木病院の魅力が伝わりましたでしょうか。写真は富山駅前を走る路面電車です。実は当院には富山大学出身の先生方が大勢いらっしゃいます。

(クッキー3)



●大宮にある鉄道博物館に行ってきました。男子はなぜ電車が好きなのでしょうか？模型を作ったり、集めたりするのは大抵男子の子です。脳の構造の違いでしょうか。

(自転車ツーキニスト)



●町おこしとして今年奥多摩にお目見えした大仏さま。丘の上にはfacebookの写真を取り合い、各国の言語が飛び交う別世界が。日本の新名所なるか!? (とんぼ玉)



●保育園の運動会で今年はペンギンになってダンスをしたり、障害物競走をしました。昨年は先生にべったりでしたが、今年は笑顔で参加して成長を見せてくれました。

(バナ男)



●先日人生初のイタリア旅行へ。テレビの泉に行きましたが、運悪くほとんど水が抜かれていました。ある意味貴重な瞬間を見られたと思うことにします。(里うさぎ)



●久々の快晴でドライブへ。空が高くて気持ちよかったので車中からシャッターを切りました。(リトルミイ)



●初めて訪れた橿原神宮、荘厳な雰囲気には圧倒されました。埴輪まんじゅうも忘れずに♪いろいろと満足な旅でした。(豆大福)



ペットのはなし

その54

わが家の愛猫はミーコと言います。

ミーコは私が幼稚園の頃に父親が会社の同僚から「いっぱい生まれて飼いきれなくなった」と赤ちゃん猫の引き取り手を捜していたことがきっかけで我が家へとやって来ました。

現在では15才を超えるおばあちゃん猫となっていました。昔はセミやスズメなど捕まえてくるやんちゃな女の子でした。

今では家に引きこもりがちで寝ている事がとても多くなりましたが、食欲は旺盛で大好物なチーズとマヨネーズ(少し変わってる)は手を出してまでもらおうとするなどやんちゃさは衰えていません。体は段々と細くなってきましたが、今も変わらず元気に我が家で過ごしています。

介護老人保健施設
さつきの里 あつぎ
平田 佑也



各施設の連絡先

東名厚木病院

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1771 FAX.046-228-0396
<http://www.tomei.or.jp/hospital/>

とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237
TEL.046-229-3377 FAX.046-228-1935
<http://www.tomei.or.jp/clinic/>

人工透析センター

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1939 FAX.046-229-1939
<http://www.tomei.or.jp/toseki/>

愛川クリニック

〒243-0303 愛川町中津2035-1
TEL.046-284-5225 FAX.046-284-2772
<http://www.tomei.or.jp/aikawa/>

とうめい綾瀬腎クリニック

〒252-1103 綾瀬市深谷中1-8-20
TEL.0467-70-1115 FAX.0467-70-2115
https://www.tomei.or.jp/ayase_clinic/

東名厚木メディカルサテライトクリニック 総合健診センター

〒243-0034 厚木市船子224
TEL.046-229-1937 FAX.046-227-0677
<http://www.tomei.or.jp/tams/>

新横浜メディカルサテライト 健診センター

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-11 金子第一ビル4F
TEL.045-471-3855 FAX.045-471-3856
<http://syms.tomei.or.jp>

介護老人保健施設 さつきの里あつぎ

〒243-0034 厚木市船子322-1
TEL.046-227-1188 FAX.046-227-0033
<http://www.tomei.or.jp/fukushi/roken/>

介護老人保健施設 なでしこの里 リハビリひろつか

〒254-0016 平塚市東八幡4丁目19番3号
TEL.0463-23-7045 FAX.0463-22-4187
<http://www.tomei.or.jp/fukushi/nadeshiko/>

南毛利地域包括支援センター

〒243-0039 厚木市温水西2-27-38 カーネーションパーク1階
TEL.046-250-1108 FAX.046-250-1105
<http://www.tomei.or.jp/fukushi/houkatu/>

訪問看護ステーション さつき

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-228-6556 FAX.046-228-6557
<http://www.tomei.or.jp/fukushi/satuki/>

訪問看護ステーション さつき サテライト愛川

〒243-0303 愛甲郡愛川町中津3529 スズキビル2F 202号室
TEL.046-284-6677 FAX.046-228-6688

東名厚木病院居宅介護支援センター

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-227-6557 FAX.046-228-6557
<http://www.tomei.or.jp/fukushi/kyotaku/>

複合型施設マザーホーム戸室

〒243-0031 厚木市戸室1-29-1
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/motherhome/>

1F 多機能型事業所「にじいろ」

TEL.046-222-7772

看護小規模多機能型居宅介護事業「いわしぐも」

TEL.046-222-7773

2F 訪問看護ステーション「もみじ」

TEL.046-294-1177 FAX.046-294-1178

3・4F サービス付き高齢者向け住宅「マザーホーム戸室」

TEL.046-222-7755 FAX.046-222-7756



バスの時刻表及びルートが変わりました。

●無料送迎バスを運行しています。
詳しくはホームページの
無料送迎バス時刻表をご覧ください。
<http://www.tomei.or.jp/hospital/>